

月	栽培管理
1	【整枝剪定】 (12月～1月) ① 木化して古くなり花芽の少なくなった枝（主軸枝：株元から出た太くて勢いのあるシュートを長年生長させた株の中心となる枝）は更新するか樹高の1/3まで切り戻す 主軸枝は1株に8～10本程度配置する。 ② サッカー（地表から出る新梢）やシュート（枝から出る新梢）は先端から1/4～1/3程度剪定し、翌年の花芽の数を多くする。 ③ 余分なサッカー（地表から出る新梢）やシュート（枝から出る新梢）は間引く。
2	
3	
4	【追肥】 土壌を酸性に保つために、硫安を10a当たり20～30kg施用する。 【鳥害対策】 鳥害防止のため、ネット、網等を設置する
5	
6	【ハイブッシュ系の品種の収穫】 (6月上旬～7月下旬) ブルーベリーは1果房に20以上の果実が結実する。果実の熟期はそれぞれ異なるため、着色等を見て3～5回程度に分けて収穫をする。収穫の目安は、果皮が赤色から明（濃）青色に変わってから7日目が目安となる。また、果軸の付け根まで完全に着色した時も収穫の目安となる。 【乾燥防止対策】 敷わら等により乾燥防止を行う他、降雨がない時は、灌水を行う 【ラビットアイ系の品種の収穫】 (7月下旬～9月上旬) ハイブッシュ系の品種と同様 【病虫害防除】 イラガ類の発生が気になる場合は、農薬を散布し防除を行う。 ショウジョウバエの予防には、株まわりの草刈り徹底し、つみ取り残しの果実、落果果実等の除去を行い、園内の清潔に保つ。
7	
8	
9	【元肥】 (10月上中旬) 土壌を酸性にするために、NK化成2号を10a当たり30～50kgを施用する

★ブルーベリーの品種と植え付け

「ハイブッシュブルーベリー」

ラビットアイに比べ酸性土壌を好み (pH4～4.5) 土壌湿度の高い有機物の多い土壌で良く繁茂し、根群の分布範囲は深さが40cm程度で浅く、乾燥には非常に弱い種類。代表的な品種ブルーレイ、ウェイマウス、パークレイ、ダロウ、コビル アーリーブルー、ブルークロップ。植栽本数は畝間 (2.0m) 株間 (1.0～1.5m) で10畝換算では植栽本数500本～333本。自家和合性が高いが、異品種を混植すると結実率が高まり、果実が大きく熟期も早まる。

「ラビットアイブルーベリー」

ハイブッシュ系に比べ土壌適応範囲 (～pH5.5) が広く、乾燥に対する抵抗性も高い。休眠期の低温要求度が低いため、暖地での栽培が可能。代表的な品種ウッタード、ホームベル、ティフブルー。植栽本数は畝間 (2.5～3.6m) 株間 (2.0～3.0m) で10畝換算では植栽本数200本～93本になる。植え付けに際しては、実際に植栽する畑のpHを測定し、ブルーベリーに合ったpHに調整する。pHが高い場合はピートモスや硫黄粉末で矯正する。硫黄粉末で矯正する場合は植え付けの最低でも定植前の3ヶ月前までに施用しておく必要がある。また調整目標は4.5程度。自家和合性が低いため異品種を混植する。